

京都観光振興計画 2020⁺¹

進化する計画の実践

～取組の追加・充実及び目標の修正について～



京都市

「京都観光振興計画 2020」 取組の追加・充実及び目標の修正に当たって

「京都観光振興計画 2020」は、平成31年（2019年）の「ラグビーワールドカップ2019」、平成32年（2020年）の「東京オリンピック・パラリンピック」及び平成33年（2021年）の「ワールドマスターズゲームズ2021関西」等の世界的なスポーツ大会の開催を見据え、誰もが安心・安全に、笑顔で楽しく暮らし観光できる、やさしさあふれるおもてなしのまちづくりを進めるため、平成26年10月に策定されました。計画では、「世界があこがれる観光都市」を目指す姿として掲げ、191の事業を推進することとしています。

計画策定後、京都市認定通訳ガイド制度の創設や国際的なラグジュアリーホテルの立地など、観光客の受入環境を充実させるとともに、米国トラベル・アンド・レジャー誌「ワールドベストシティ」での6年連続ベスト10入りや英国ワンダーラスト誌「読者投票ベストシティ部門」での2年連続1位など、京都の世界的な評価も確固たるものになりつつあります。また、平成28年に過去最高の国際会議開催件数を達成するなど、MICE分野においても大きな成果が見られます。このように、計画に掲げた事業を着実に推進することで、「外国人宿泊客数年間300万人」、「観光消費額年間1兆円」といった計画に掲げた目標についても、計画期間を大幅に前倒しして達成しました。

一方、観光を取り巻く動きは非常に早く、計画策定後、外国人観光客の急激な増加等による混雑やマナーの問題、民泊問題などが顕在化するとともに、観光をはじめとするサービス産業を支える担い手の育成と確保が課題となっています。また、平成33年度（2021年度）までに文化庁の京都への全面的移転が行われる予定であるほか、宿泊税の徴収が平成30年（2018年）10月から開始されるなど、今後の京都観光を取り巻く環境も大きく変化していくことが見込まれます。このような課題や環境変化に対応するため、今回、現計画への新規事業の追加及び既存事業の充実を行うとともに、現計画の目標修正を行います。

今回の取組の追加・充実に当たっては、現計画の方向性を踏まえながら、「市民生活と観光との調和」をより重視し、質の高い観光の提供とマーケティングの充実により観光客の皆様の満足度を高めるとともに、観光を地域経済の振興と地域活性化につなげることで、市民生活の豊かさの向上を図る取組を拡充します。

これにより、持続可能で満足度の高い国際文化観光都市を目指して着実な歩みを進め、50年後、100年後も世界の京都として輝き続け、観光を通じて市民の皆様と観光客の皆様、そして事業者の皆様に満足を与えられ続ける都市であり続けることを目指します。

1 京都観光振興計画 2020 の成果

平成26年10月の策定後、計画に掲げた取組を、スピード感を持って着実に推進することにより、受入環境の整備や観光資源の充実、MICE受入れの推進など、観光の各分野で大きな成果を上げることができました。

京都観光振興計画2020に掲げた取組の推進状況

着手済 189事業（着手率 99.0%）

未着手 2事業※

※30年度 実施予定

（1）受入環境の整備

- ・ 京都市認定通訳ガイド、フォーリンフレンドリータクシー、京都工房コンシェルジュ
- ・ 観光経営を学ぶ高等教育の推進と京都大学での観光 MBA コース創設
- ・ 四条通歩道拡幅、八条口駅前広場整備
- ・ 宿泊施設拡充・誘致方針策定、上質宿泊施設誘致制度の創設
- ・ 国際的なラグジュアリーホテルの立地
- ・ Visa との連携協定をはじめとした外国人観光客の買物環境向上支援（市域の免税店 26年4月 178店⇒29年4月 1,363店）
- ・ ムスリム受入体制やハラール対応の充実（礼拝スペース 1箇所⇒13箇所）
- ・ 車いすレンタル制度の創設
- ・ 新たな観光振興体制 京都市版 DMO の構築

（2）観光資源（コンテンツ）の充実

- ・ 東アジア文化都市 2017、スポーツ・文化・ワールドフォーラム、ラグビーワールドカップ 2019 抽選会京都開催、大政奉還 150 年・琳派 400 年・伊藤若冲生誕 300 年記念事業、京都国際現代芸術祭等の文化行事と観光の融合
- ・ 着地型ツアーの充実、朝観光・夜観光の取組
- ・ 大津・奈良、宇治・亀岡など周辺自治体との連携強化
- ・ 「京の冬の旅 50 周年」、「京の夏の旅 40 周年」
- ・ 「ロームシアター京都」リニューアルオープン、「京都市動物園」再整備

(3) プロモーションの強化

- ・ 日本ラグジュアリートラベルアライアンスの発足
- ・ トラベル・アンド・レジャー「ワールドベストシティ」6年連続ベスト10入り, 「世界で最も文化的魅力の高い観光都市ランキング1位」(2016), ワンダーラスト「読者投票ベストシティ部門1位」(2017,2018), フォーブス「世界で最もロマンチックな20都市」(2017)など海外誌での評価の高まり
- ・ エクスペディアグループとの連携協定による京都ブランドの発信等の推進
- ・ メディア支援センターの発信力強化等による海外メディアへの露出拡大
- ・ 民間事業者とも連携した多言語HPでの情報発信や市公式アプリ「HELLO KYOTO」等を活用したプロモーションの充実

(4) MICE受入れの推進

- ・ 過去最高の国際会議開催件数, 参加者数
(計画策定時 25年実績 176件, 約96,000人⇒28年実績 278件, 約200,000人)
- ・ 主要会議, MIの京都開催, 誘致成功
第59回日本糖尿病学会 2016年 約14,000名 伝統技法を活用したコングレスバッグを採用
世界神経学会議 2017年 約8,000名 ユニークベニューやコンベンションパスの活用
国際博物館会議(ICOM) 2019年 約2,500名
UNWTO/UNESCO 観光と文化をテーマにした国際会議 2019年 約800名
国連犯罪防止・刑事司法会議 2020年 約5,000名
イタリア高級自動車メーカー, フランスジュエリーメーカー, イタリアファッションブランドのインセンティブ誘致
- ・ 伝統産業や伝統文化に触れる機会の充実 (ロビー等での伝統産業実演や文化体験等)
- ・ 岡崎 MICE の推進
- ・ 京都大学との連携協定締結による MICE 誘致等の推進
- ・ 会議施設や宿泊施設等の事業者連携の強化
- ・ ユニークベニュー施設の充実
- ・ 国による国立京都国際会館の多目的ホール整備

2 計画目標の達成と課題等への対応

取組の推進によって、「外国人宿泊客数年間300万人」や「観光消費額年間1兆円」といった計画目標を大幅に前倒して達成するなどの成果を上げる一方、近年の京都観光を取り巻く動きは非常に早く、文化庁の京都への全面的移転決定などの新たな環境変化が生じています。

☆ 計画目標の達成

- ・外国人宿泊客数 300万人 5年前倒して達成
(25年実績 113万人⇒28年実績 318万人)
- ・観光消費額 1兆円 4年前倒して達成
(25年実績 7,002億円⇒28年実績 1兆862億円)

新たな環境の変化

- ・文化庁の京都への全面的移転(2021年度までに移転予定)
- ・宿泊税制度の創設(2018年10月から徴収開始)
- ・訪日観光客の増加(国目標の上方修正:2020年2,000万人⇒4,000万人)
- ・2025年問題(国内マーケットの縮小)(※) など

※日本が2025年頃に本格的に直面する超高齢化社会の問題。これに伴い国内観光の市場が縮小することが予想されている。

さらに、外国人観光客の急激な増加等による混雑やマナーの問題、民泊問題など、様々な課題が顕在化しており、このような課題や環境変化に対応するため、より市民生活と観光との調和を重視するとともに、観光を地域経済の振興と地域活性化につなげる観点に立った取組を追加・充実させ、持続可能で満足度の高い国際文化観光都市を目指します。

計画策定後の課題

- 外国人観光客の急激な増加とマナー問題
- 無許可民泊施設の増加
- 観光客の集中と混雑
- 国内観光地間の競合激化
- 観光の経済効果が広く行き渡っていない
- 伝統産業や伝統文化等の振興につながる仕組みが不十分
- 観光客が奥深い魅力に十分触れられていない
- 観光業やサービス業を支える担い手が不足

課題や環境変化への対応

- ▶ ①市民生活と観光との調和
- ▶ ②国内観光客の維持
外国人観光客誘致の充実
 - ・観光、産業、文化の融合
 - ・中小企業の振興、伝統産業の振興
 - ・伝統文化をはじめ幅広い文化・芸術の振興
 - ・周辺市街地、山間地域等の活性化
- ▶ ③担い手の確保と育成

課題や環境変化への対応

- ①市民生活と観光との調和, ②国内観光客の維持, 外国人観光客誘致の充実,
③担い手の確保と育成

- 
- ・市民所得, 事業者収入の増加⇒市民生活の豊かさへ
 - ・都市格, ブランド力の向上 ・交流の進化, 平和への貢献
- 

2020 年「東京オリンピック・パラリンピック」以降, 「ワールドマスタースゲームズ 2021 関西」も見据え,
「持続可能で満足度の高い国際文化観光都市」を目指す

「持続可能で満足度の高い国際文化観光都市」とは,

市民生活と観光との調和の確保を大前提として,

- ・ 歴史的建造物や庭園, まちなみ景観, 自然景観, 伝統文化, 現代文化, 生活文化, 伝統産業など, 京都の優れた文化を守り, 育て, 創造的に活用を進める都市
- ・ 観光, 文化, 経済を融合し, 国内外から訪れる人々との交流を通じて, 地域の発展につなげる都市
- ・ 市民, 観光客及び事業者に高い満足を提供する都市

3 追加及び充実の取組

現計画に記載のある191事業に、今回新たに27事業を追加し、計218事業を推進していきます。また、既存の事業についても充実を図っていきます。

【凡例】

- ・**追加**…現計画に記載がなく、新たに追加する事業
- ・**充実**…現計画に記載があり、取組を充実させていく事業（番号は現計画における推進事業の番号）
- ・**★**…推進事業のうち特に重要で優先度が高い重点事業
- ・**【●】**…追加事業のうち平成30年度新規予算化事業
- ・**【○】**…追加事業のうち平成29年度新規予算化事業

(1) 市民生活の豊かさの実現とおもてなし向上

追加10事業

施策1

市民や子どもが歴史、伝統、文化に触れる機会の創出（市民の誇り醸成）

推進事業 4事業

★**追加** 暮らしの文化はぐくみ事業 **【○】**

京都の暮らしの中で育まれ、根付いてきた生活文化の次世代への承継を進めます。

充実（001）「市民による魅力再発見事業」における小学校等へ出張講義など

充実（002）文化芸術や伝統工芸に関する「担い手育成」に資する事業との連携など、子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実

充実（109）市民や観光客向けの「マンガ」を通じた三大祭等の魅力発信

施策2

旅行者をあたたかく迎える市民の取組

推進事業 2事業

充実（003, 005）京都・観光文化検定の受検促進など、子どもたちが京都を知る取組の推進や、外国人に対して「おもてなし」を実践することのできる英語教育の充実等を通じた子どもたちによる国際文化観光都市・京都の魅力発信

充実（108）地域住民により構成される団体等が実施する市民や観光客の安心・安全の確保に向けた取組等に対する支援

施策3

地域の活性化，中小企業，商店街や地場産業の振興

推進事業 6事業

★追加 旅館をはじめとする宿泊施設の経営強化 【●】

経営コンサルタント・SEなどの専門家派遣や若手従業員向け合同研修の実施，空室状況表示システムの構築等を通じて，旅館をはじめとする宿泊施設の皆様の経営力の強化を進めます。

追加 MANGAナショナル・センター（仮称）誘致推進事業 【●】

誘致機運を高めるため，京都国際マンガミュージアムの情報発信強化や，マンガを活用した京都の魅力（食文化，和装文化等）のPRを実施します。

追加 西陣の歴史力，文化力，地域力，人間力を活かした地域の活性化 【○】

西陣を中心とした地域が有する，多彩な歴史・文化・観光資源を活かした活性化に取り組みます。

追加 京都駅周辺エリアの活性化の推進 【○】

<西部エリア>

中央卸売市場第一市場の施設整備計画や京都鉄道博物館の開業，梅小路公園の再整備等により，新たな賑わいが創出されることを契機とした，京都駅西部エリアの活性化を進めます。

<東部エリア>

京都市立芸術大学等の移転が予定され，文化芸術を基軸としたまちづくりを通じて，個性豊かで魅力的なまちづくりを進めます。

<東南部エリア>

「文化芸術」という新たな視点を取り入れることにより，「若者」を中心とした新たな人の流れを生み出し，本エリアと京都駅周辺地域の活性化を進めます。

★充実（034～038, 040）食やナイトライフ等の情報発信強化，商店街など事業者向けインバウンド対応強化，帰国後消費や輸出促進を見込んだ買物環境整備など事業者支援の充実

充実（076）伝統産業製品の需要拡大及び伝統産業の担い手育成に向けた京都伝統産業ふれあい館の更なる魅力向上及び販売促進機能の強化

施策4

観光地や交通機関等における混雑緩和と受入環境の整備

推進事業 10事業

★追加 観光地等における混雑緩和策の実施 【●】

市民生活と観光との調和を図るための混雑緩和策を進めるとともに，混雑を回避するための経路情報や観光情報の発信，観光バスの路上滞留対策等を行います。

追加 「地下鉄・バス一日券」等の価格の見直しに合わせた地下鉄利用を促進するPR **【○】**
「地下鉄・バス一日券」等の価格の見直しに合わせて、目的地まで効率よく快適に移動していただけるよう地下鉄も上手に利用した観光を案内します。

追加 洛バス100号系統での「前乗り後降り方式」の導入 **【○】**
市バスの混雑対策として、洛バス100号系統において「前乗り後降り方式」を導入します。

追加 ビッグデータ等を活用した交通流動実態調査 **【○】**
携帯電話位置情報などのビッグデータの活用及び既存データの更なる活用・検証を通じた調査の実施や、市民・観光客の交通利用の最適化を目指した新たな公共交通システムの導入可能性等について、具体的な検討を進めていきます。

追加 ICT・AIを活用した「観光交通イノベーション地域」実証事業
国等との連携の下、「京都エリア観光渋滞対策協議会」を設置し、実験内容を検討するとともに、ETC2.0やAIカメラ等を活用して得られる交通流動データを分析し、今後の観光地交通対策への活用方法を調査・研究します。

充実（043）観光地周辺における公園や駐車場等のトイレのリニューアルやトイレ清掃の充実

充実（046）観光施設従業員向けのおもてなし講習会の実施など、ユニバーサルツーリズムの普及促進

★充実（048, 049）回遊性向上につながる観光案内標識の充実

充実（049, 054）見やすいフルカラーLED式行先表示器の導入や車内案内表示装置等の4箇国語対応の推進など市バス・地下鉄の案内表示の充実

★充実（058）動画やソーシャルメディアの活用による手ぶら観光の普及促進

(2) 市民と観光客の安心・安全の確保

追加5事業

施策5

民泊の適正運営の確保（違法民泊への対応強化、地域等への支援）

推進事業 3事業

★**追加** 「民泊」対策事業 **【○】**
市民及び観光客の皆様の安心・安全の確保と、地域住民の皆様の生活環境の保全のため、「民泊通報・相談窓口」の体制強化や違法不適切な「民泊」に対する指導の強化を図ります。

追加 宿泊施設等の火災予防対策の推進 **【○】**
宿泊施設への火災予防の徹底、外国人観光客等への情報伝達や避難誘導が効果的に講じられるよう事業所の防火体制の充実・強化を図り安心・安全を確保します。

追加 地域まちづくり支援の取組の推進 **【●】**

より多くの地域へのまちづくりの専門家の派遣を通じて、民泊対応も含めた、地域の将来像やルールづくり等の取組を支援します。

施策 6

マナー啓発の強化

推進事業 1 事業

★**追加** マナー啓発の強化 **【●】**

生活習慣の違いなどから生じる外国人観光客のマナー問題について、マナー向上に向けた啓発を強化します。

施策 7

災害時避難誘導の推進

推進事業 2 事業

追加 「国際文化観光都市・京都」としての災害時避難誘導の推進 **【●】**

避難誘導等の標識について、日本語の読めない外国人観光客にも一目で分かるように、全国的に標準化された図記号「ピクトグラム」を広域避難場所の標示板及び誘導標識に新たに採用します。

充実 (021) 避難誘導マニュアル等を活用した災害時の正確な情報提供や迅速な誘導など、帰宅困難者対策の充実

(3) 国内外観光客へ質の高い観光の提供

(住んでよし、訪れてよしのまちづくり)

(山間地域等を含めた市域全体への観光地の分散化)

追加 9 事業

施策 8

市域全体へのお客様誘致の推進

推進事業 7 事業

追加 観光地の分散化 **【●】**

地域や事業者と連携し、地域の特性に合わせた事業等を推進し、観光客の集中緩和を図るとともに、集中的なプロモーション等を通じて、新たな京都観光の魅力づくりにつなげます。

追加 明治150年を契機とした文化、観光等の振興 **【●】**

明治期の日本人の精神文化を学ぶ観光メニューの造成・発信，歴史的な魅力があふれる京北山国地域及び山国隊の魅力発信，梅小路チンチン電車の歴史的価値の発信や車両の調査・補修による再生等を進めます。

充実（014, 075）京都市認定通訳ガイド等による隠れた観光地を巡るツアーの拡充等

★充実（071, 072）ニーズに基づいたコンテンツ開発と情報発信の充実による朝観光と夜観光の推進

充実（073）温泉PR映像の製作やSNSでの情報発信等による温泉観光の魅力発信

★充実（108）地域が主体となった観光振興の取組への支援

充実（111）区役所・支所と地域が連携した各地域の奥深い魅力の発信や観光資源の発掘等の強化

上京型観光の創出～アプリを活用した魅力発信

左京・地域ゆかりの文化発信・継承プロジェクト

明治を学ぼう！東山

西京区の魅力と文化の発信～西京区認知度up大作戦～

市バスで巡る小さな旅in洛西

「伏見観光プロジェクトチーム」による観光振興

伏見「文化・観光の語り部創生」 など

施策9

「京の食文化」観光の推進

推進事業 1 事業

★充実（100）地域の食にスポットを当てた魅力発信など「京の食文化」を楽しむ観光の推進

施策10

文化、景観及び観光の融合

（文化財，伝統文化及び伝統産業の振興と活用）

（京都市交響楽団や京都市美術館，芸術系大学の魅力発信）

推進事業 1 1 事業

追加 文化芸術創造拠点・京都プロジェクト **【●】**

文化庁事業を活用し，芸・産学官の連携により，文化芸術を社会の基盤と位置付け，社会的・経済的価値を創出するとともに，東京2020オリンピック・パラリンピックとその後ろを見据えた，国際発信力のある拠点形成や，外国人観光客の増加に取り組みます。

★追加 新・文化庁の機能強化との連携事業 【●】

文化庁と連携を図りながら、京都が「文化芸術資源を活用した地方創生のモデル」
となり、文化芸術都市・京都の都市格をより一層高めることを目指します。

Res Artis（レザルティス）2019京都会議の開催

伝統芸能文化創生プロジェクト

文化芸術による共生社会実現のための基盤づくり事業

若手芸術家の新たな活動拠点の形成

暮らしの文化はぐくみ事業

追加 東アジア文化都市交流事業 【●】

平成29年に開催した「東アジア文化都市」事業の成果を踏まえ、文化の交流に
取り組み、文化の力で東アジアの平和的発展に貢献するため、中国・長沙市、韓国・
大邱広域市と交流を実施していきます。

追加 京都市交響楽団の魅力の発信

市民向けの情報発信に加え、国内外の観光客に向けても京都市交響楽団の公演情
報等を発信していきます。

追加 二条城の保存・活用推進 【●】

文化財の保存と活用のモデルとなることを目指し、二条城の保存・活用を推進し、
その価値を将来にわたり受け継いでいくための取組を進めます。

追加 大学と連携した「京都学」講座の開催

京都の伝統文化・伝統産業に対する理解と知識を深めていただくため、京都の各
分野で活躍されている方々をゲスト講師として招き、リレー形式で「京都学」講座
を開講します。

充実（068, M14）ユニークベニユーの活用など、現代のニーズに応じた京都市美術館の再
整備

充実（093）建物や庭園の維持・継承の支援や公開などの活用に向けた「京都を彩る建物
や庭園」助成制度の拡充

充実（108）民間事業者と連携した新たな視点での京都の文化資源の魅力発信

充実（127）京都とパリの交流を通じて世界のアート市場を目指した新たな商品開発など、
アート市場での販路拡大の支援

★充実（M26）伝統文化の維持・継承，伝統産業振興など地場産業振興につなげる MICE 誘
致の推進

施策 11

まちなみ景観，自然景観など 魅力の保全・活用・創造
（京町家，無電柱化事業，桜景観・円山公園再整備等）

推進事業 6事業

追加 歴史的景観を保全・継承する京の道づくり **【●】**

訪れる人を魅了することに加え、地域の価値を高めるため、周辺景観と調和した舗装等を実施していきます。

充実（086, 087）景観規制の強化等に伴う周知・普及啓発など、歴史的景観の保全に関する景観政策の充実

★充実（088）「京都市京町家の保全及び継承に関する条例」に基づいた京町家の保全・継承に関する取組の推進

★充実（089～091）景観づくり推進のための規制・誘導のあり方について調査・検討を行う審議会を設置など「新景観政策」の更なる進化

充実（096）桜景観創造プロジェクト、円山公園の再整備、宝が池新景観創造事業の実施

充実（098）世界文化遺産や伝統的建造物保存地区の周辺等を中心とした無電柱化事業の推進

(4) マーケティングの強化

追加 1 事業

施策 1 2

ブランド構築（質の高いコンテンツや旅館の魅力発信などプロモーションの充実）

推進事業 5 事業

★**追加** 旅館をはじめとする宿泊施設の魅力発信 **【●】**

京都ならではの奥深い「和」の魅力が体験できる「旅館」の魅力発信に向けた取組を支援します。

充実（144）観光庁や日本政府観光局（J N T O）、東京都等との更なる連携強化

★充実（146, 152）京都観光オフィシャルサイトの充実や観光映像素材の製作など、観光・文化コンテンツの発信力強化

★充実（154）旅行者の特性に応じた情報発信による京都ファンの囲い込み

充実（158）京都館を活用した更なる京都の魅力発信（京都館プロジェクト2020の実施）

施策 1 3

富裕層誘致の拡大等

推進事業 2 事業

充実（074）ラグビーワールドカップ2019、2020東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスタースゲームズ2021関西の参加者及び観戦者の誘致

充実（123）複数自治体連携の取組拡充など、富裕層誘致の強化

施策 14

国内外修学旅行の誘致

推進事業 1 事業

充実（118, 119）修学旅行時期の閑散期等への誘導を行うなど国内外修学旅行の誘致強化

施策 15

MICE誘致の拡大

推進事業 3 事業

充実（M14, M16, M17）M I 専門官による情報収集・分析実施によるニーズ把握，京都らしいM I C E開催推進のためのユニークベニュー施設開発及び情報発信の強化

充実（M20）海外M I C E有力商談会への出展を通じたM I C E開催都市としての認知度向上及び関係者等とのネットワーク構築強化等

充実（M26, M27）M I C E開催時に利用する伝統産業製品を活用した製品（名札や会議バッグ等）の作製，京都ならではの視察ツアーの開発及び充実によるM I C E誘致競争力の強化

(5) 京都の観光を支える担い手の確保と育成

追加 2 事業

推進事業 4 事業

★**追加** 京都観光を支える企業間の協業促進や起業支援の実施
京都観光の担い手の確保と育成を図るため，企業間の協業促進や企業・ベンチャー支援につながる事業を進めます。

★**追加** 観光関連産業安定雇用促進事業 **【〇】**
正規雇用の拡大と労働生産性の向上を図るため，専門家による相談支援や，首都圏等の求職者を対象とした市内中小企業の魅力発信を実施します。

充実（016）「おもてなしコンシェルジュ」制度の充実

充実（017）観光関連の教育・研究を行う大学等との連携強化や，学生が観光客を暖かく迎える機会の提供など，次代の京都観光の担い手育成支援

(6) 観光振興推進体制の強化

施策 16

持続可能な観光振興体制（京都市版DMO）の強化

4 計画目標の修正と指標について

1 目標

「市民生活と観光の調和」を最優先に、市民生活と観光の「質」の向上を図り「量」を確保するという考えの下、観光客の満足度の向上を通じて観光の効果を最大限に高め、京都市域全体に還元し、観光の担い手や伝統産業の担い手の確保と育成を図るとともに、市民生活の向上に寄与させるため、引き続き観光消費額を指標・目標として設定する。

修正

- 単に観光客の増加を目指すのではなく、**延べ宿泊客数の増加**や**観光消費額単価の向上**を図ることにより、年間観光消費額の目標を現計画における「1兆円」から「**1兆3,000億円**」に上方修正する。

(現状)1兆862億円

(目標設定の考え方)

① 延べ宿泊客数の増加

質を向上し、宿泊客の量を確保 日帰りより1泊、1泊より2泊 滞在の長期化を目指す。

外国人観光客は平均宿泊日数1.98泊を3泊に、国内観光客の延べ宿泊客数は現状維持を目指す。

② 経済波及効果が相対的に高い飲食費や体験費用等の消費額向上

コンテンツの充実と情報発信の強化により、観光消費額の単価アップを目指す。

宿泊客 +約4,000円

(食事費用3,000円+入場・拝観料・交通費や体験費用1,000円)

日帰り客 +約600円(拝観料相当1回分)

継続

- この計画を通じて、世界中の人に京都に行きたいという「あこがれ」を持っていたく目標として、**京都を再び訪れたいという「再来訪意向」、親しい友人に京都観光を勧めたいと思う「紹介意向」、同様に丹精込めた「おもてなし」により、京都を訪れた方々に、多くの感動を届ける目標として、京都滞在中に「おもてなし」を感じたかをお聞きする「京都のおもてなし度」について、毎年着実に評価を向上させ、より100%に近づけていきます。**

とりわけ、各項目における「**大変そう思う**」の回答割合について、日本人、外国人とも**80%以上**を目指します。

(現状) 再来訪意向	大変そう思う～ややそう思う	日本人95.3%	外国人92.6%
	大変そう思う	日本人60.8%	外国人57.1%
紹介意向	大変そう思う～ややそう思う	日本人87.4%	外国人96.4%
	大変そう思う	日本人47.2%	外国人66.0%
京都のおもてなし度			
	大変そう思う～ややそう思う	日本人50.4%	外国人89.0%
	大変そう思う	日本人16.0%	外国人53.8%

※現状については「平成28年京都市観光総合調査」の数値を記載しています。

2 指標

取組の進捗を計る指標（K P I）として、以下の項目について定期的に数値を評価したうえ、P D C Aサイクルを活用し、計画を着実に実行していきます。

(1) 「市民生活と観光との調和」の進捗を把握するため市民生活実感調査を活用

ア 京都は、市民にとってしやすい観光都市である。

イ 京都は、観光客にとって質の高い観光都市である。

(2) 京都観光総合調査における、観光客の満足度

(3) 外国人観光客の平均観光消費単価及び京都へのリピーター率

なお、(1)及び(2)については、「ネットプロモータースコア」(※)も活用して意向を評価します。

※ ネットプロモータースコア

企業ブランドの強さを測定する指標で、肯定的な人の割合から否定的な人の割合を差し引いた指標。